

令和4年度 学校自己評価

中津市立三郷小学校

1 学校の教育目標

課題に気づき 深く考え 共に意欲を高めて挑戦する 児童の育成

2 育成を目指す資質・能力

言語能力 ・ 問題発見・解決能力

3 重点目標・達成指標、重点的取組等

評定判断基準	
A	…達成率90～100%
B	…達成率70～89%
C	…達成率60～69%
D	…達成率60%未満

重点目標	達成指標	重点的取組	取組指標	評価	成果と課題、及び次期（次年度）に向けての取組
生きて働く知識・技能の育成	得課題習設事項の定着と習 ○児童アンケート「キーワードをつかってふりかえりができた」（書けると言える項目で◎と回答する児童の割合が60%以上） ○算数の単元テストにおける観点別の項目で80点以上の児童の割合が70%以上 ○80点未満の子は、同じテストの追試で前回の点の10%アップを目指す。	学校 ○単元のまとまりを意識した授業を展開し、毎時間のキーワードの活用やふりかえりによって、基礎学力（言語能力・論理的思考力）を習得させる取組と、活用力（思考力・表現力を重点）をスモールステップで向上させる取組。	○国語・算数・理科の授業において、習得すべきキーワードを板書に位置づけるとともに、キーワードを見直し、考察、まとめや振り返りの時に使う。 ○毎回、単元テストを観点別に集計し、成果と課題を把握する。（個に応じたきめ細やかな支援） ○全教員で、月・火・水・木・金のスキルタイムで、曜日と教科を固定した補充学習を行う。月→（基礎計算）火→（読解）水→（文章問題）木→（活用）【説明力】金→（小作文）	A	・キーワードをつかってふりかえり◎児童75%（8%↑）：前期比 ・算数単元テスト（80点以上70%）全校 82%（5%↑） 達成率115 ○キーワードを、意識して使わせ、教科用語の更なる定着を図る。 ○キーワードを使っのての説明力（表現力）をつけていく。 ○中津市の学力調査の結果より、スキルタイムや追試で、繰り返しの学習の成果が出ている。（国語・算数の基礎基本、読解力、条件作文）
		家庭 ○子どもの生活習慣を見直し、子どもと一緒に取り組む家庭環境づくり	○親子読書の声かけをし、子どもたちと一緒に取り組む。 ○学期に1回「親子でメディアコントロール」に取り組む。	B	・親子読書実施10・1月実施 全学級◎◎保護者83% ・親子メディア感想 100%（5%↑）◎◎保護者75% ○担任も保護者も一緒に取り組むよう啓発していく。
		地域 ○CS実践組織（地域協育部）を中心に、学習支援を行う	○協育コーディネーターと連携して「なかつスクスクプロジェクト」を計画的に実施する。	A	○協育コーディネーターと連携しコロナの感染状況を見ながら実施ができた。次年度に向けてCS等で成果と課題を明確する。
思考力・判断力・表現力の育成	成問他と協解決する力の育 ○児童アンケートで、「ペア・グループ活動を通して思いを伝え合うことができた。」◎◎と回答する児童の割合を90%以上 ○児童アンケートで、「いろいろな方法で考えるためにICT・思考ツールを活用することができた。」◎◎と回答する児童の割合を90%以上（ホワイトボード・ロイロノートなど）	学校 ○思考ツール（ホワイトボード・タブレット）を活用して考えを深め、課題解決に向けて協働する取組	○【全学年】考えるための技法を位置付けるために、ペア・グループ学習を1日1回以上授業で取り入れ、思いを共有する。 ○【1・2・3年】ホワイトボードで自分の考えを視覚的に表現する。 ○【4・5・6年】ロイロノートの思考ツールで自分の考えを視覚的に表現する。	A	・思いを伝え合うことができた◎◎児童94%（4%↑） ・ICT・思考ツールを活用できた◎◎児童100%（22%↑） 達成率108 ○授業のパターンが定着してきた。引き続き、思考を深め、交流したくなるICT活用「視覚化」「焦点化」「共有化」をめざす。
		家庭 ○家庭学習に集中できる家庭環境づくり	○「三郷っ子チャレンジカード」の取組に参加し、感想を書く。	A	・取組に参加し感想を書いた◎◎保護者100%（2%↑） 宿題93%（→）朝ご飯97%（→）整理整頓78%（6%↑） ○引き続き、取組結果を保護者に伝え意識の向上を図る。
		地域 ○「三郷っ子見守り隊」を中心としたあいさつ・声かけ運動の推進	○登下校時に子どもを見かけたら、あいさつや言葉かけをする。 ○地域での子どもの様子について、学校に伝える。（学期に1回アンケート）	A	・あいさつ+1ができた◎◎見守り隊アンケート（1月実施）100% ○地域の方の声を吸い上げ、地域の子どものを共に育てる意識を高めていく。
学びに向かう力、人間性等の涵養	育意て身につけた力を活用し ○共通アンケートの「みんなで何かするのは楽しい」の項目で、当てはまる、やや当てはまると回答する児童の割合を95%以上 ○児童アンケートの「感想発表で、自分の思ったことや感じたこと等を伝えることができた。」の項目で、◎◎と回答する児童の割合90%以上	学校 ○友だちや、社会との関係を大切に作る心情を育成する取組 ○身につけた力を活かして考えを深め、進んで実践する取組	○主に生活科・総合的な学習の時間にGTを活用した授業を学期1回以上仕組む。（事前事後学習を教科横断的に取り組む） ○行事・集会・掃除・学級活動などで、週に1回以上、感想発表の場を設ける。 ○各学年で、発表についての振り返りの場を週に1回以上設ける。	A	・みんなで何かするのは楽しい◎◎児童100%（8%↑） ・感想発表で、思いを伝えた◎◎児童92%（2%↑） 達成率104 ○引き続き感想発表を必ず行い、向上心や挑戦する力を育む。 ○相手意識を高める振り返りの実施で想いをつないでいく。
		家庭 ○家庭内で「三郷っ子スピリッツ（あいさつ・返事・言葉づかい・整理整頓・時間）」の励行	○学期に1回「三郷っ子チャレンジカード」の取り組みに参加し、感想を書く。	A	・取組に参加し感想を書いた◎◎保護者100%（8%↑） ○取組結果から気づいた点を学級懇談や通信で知らせ、引き続き子どもと共に育てる意識を高める取組を継続する。
		地域 ○CS実践組織（学校協育部）を中心に、体験学習を行う	○森林体験学習（みどりの少年団活動）・防災学習等を計画的に実施する。	A	○森林体験学習（みどりの少年団活動）・防災学習等を計画的に実施できた。 ○全国育樹祭に向けた取組を成功体験へとつなげた。引き続き、ふるさとを誇りに想う思いをつないでいく。 ○書く活動でまとめまできちんと行うことができた。
働き方改革の推進	時間外の勤務削減 ○1箇月の平均時間外在校等時間を40時間以内	学校 ○計画的・効率的に会議を運営し、個別業務に充てる時間の確保と、各担当の業務内容の精選	○ミドルリーダーは、提案内容について適宜、指導・助言を行い、提案内容の精度を上げる。	A	○職員の月平均時間外在校等時間12月…24h22m 前年同月比-8.47h 1月…21h04m 前年同月比-3.12h ○月の時間外在校等時間40時間以上12月…1名 前年同月比-1名 1月…0名 前年同月比-1名 ○計画的に諸準備や提案ができるようスケジュール力をつけていく。 ○残っている業務を確認し、サポートや精選の声かけをしていく。
		家庭地域 ○時間外のPTAや地域協育等に関わる会議等の協議内容の精選と、妥当な終了時間の設定	○担当者・司会者は、会の進行管理と効率的な運営を行う。 ○参加者は積極的に意見を出し、効率的な会の運営に協力する。 ○会の開始時刻をできるだけ早めたり、終了予定時刻を事前に知らせておく。	A	○年間のPTA関係の会合をできるだけ精選していく。 ○引き続き、学校運営協議会の場等で、働き方改革の視点を話題にしていける。